



民主的な決め方とは

2年生が地域ウォークを1月31日(金)に実施しました。山陽中校区のなかを楽しく巡検し、事故やけがなく無事に終了することができました。保護者や地域の方々におかれましては、本行事に際し、ご理解やご協力を賜りましたこと、心より感謝いたします。この場を借りて、お礼申し上げます。有難うございました。

さて、この行事は、来年度の4月19日(土)から21日(月)に予定している修学旅行の班別学習の練習やリーダー研修を兼ねて実施したものです。生徒ができるだけ主体的に行事を計画・実施するために、2年部教職員はこの機会に当事者意識を持たせながら、ルールづくりをさせています。

その取組として、当日の服装(体操服か、制服か)について、学年集会で議論しました。学年全体の討議は初めてですが、体操服派、制服派がそれぞれの立場で多くの生徒が理由を述べていました。やがて動きやすさの観点から、体操服の方が地域を歩いてまわるときに適している、という意見を述べる発言者が多数を占める展開になりました。

司会者は、学年全体に「どちらの服装がよいか」と挙手を求め、その数を集約しました。体操服を支持する生徒が多数いましたが、生徒のなから、「どちらでもよいのでは」という意見が出始めました。

この後、司会者はどのように会議を進行させるのか、と様子をうかがっていると、再度多数決を採用して決議するのではなく、2年部教職員に相談し、大人の意見を求めました。教職員は、全員が体育館の前に集合して協議し、「どちらかひとつの服装に決める必要があるのかな」と司会者に返したようです。

そして、司会者が「どちらでもよい」という意見に賛同する人に挙手を求めると、みごとにほぼ満場一致で当日の服装が、どちらでもよい、と決まりました。

私は、体育館の後方から見ていましたが、2年生の皆さんが頼もしかったです。体操服にほぼ決まりかけているなかで、安易に多数決に頼らずに、少数派の制服支持者の思いを酌(く)むことができてよかったです。自分たちでルールを決めようとする当事者意識も感じられました。この学年会議での2年生全員の合意形成を成し得た経験を修学旅行でも普段の学校生活にも活かしてほしい、と期待します。

民主的な決め方は、物事を多数決で決めるのではなく、できるだけ話し合いを通じて、ゴールを目指すものである、と思っています。なぜなら、たとえできるだけ多くの人の意見を反映して決めたとしても、少数派の意見は切り捨てられ、不満な気持ちが残る可能性があるからです。時間的な余裕がないときには、やむを得ず多数決をとらなければならないときがあります。しかし、切羽詰まった状況でもないときに、当たり前のように多数決で決めるのは避けるべきです。多数決をとってよいのは、どちらかの意見を取り入れても対立する利害関係が生じない場合です。

対話を通して利害関係を調整し、皆にとって生きやすい社会をつくっていくという姿勢が、目指すべき民主的な社会の形成には必要です。SDGsの理念のなかでは、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

私たちにできることは、「中学校で生活するうえで、誰一人置き去りにしないために、どのようにしたらよいのか」を共通の高位目標にしてみんなで考える、ということではないでしょうか。どうかこのような意思決定の仕方を生徒の皆さんに身につけてほしい、と切に願います。

本校では、ファシリテーションの手法を活用し、日々の教育活動を行っています。他者の意見に対して、「否定しない」「最後まで聴く」「書く描く」「協力する」の4つの対話の原則を守りながら傾聴するなかで、上記の目標を心にとめて、考えてもらえたら嬉しいです。どうか少数派を切り捨てない「対話の方法」を通して、本校をより民主的な中学校にしていきたいと考えています。